学校だより　９月号

～和・希望・自立～

令和5年9月4日
福岡県立久留米聴覚特別支援学校

校長室から　～子どもたちが感じていること、考えていること～

校長　秋山　洋子

本校中学部では、毎年、「久留米市青少年弁論大会」に参加しています。今年度は、中学生の部に中学部２年生の鍋田　明花（なべた　めいか）さんが弁士として出場しました。当日はたくさんの参加者や観客の前で、手話と音声を用いて堂々と弁論を行い、参加した20人の中学生弁士の中から、審査員特別賞を受賞しました。「聞こえていなくても」というタイトルで、同じ聴覚障がい者であるお母様の姿や、日常生活の中での「聞こえる人」とのコミュニケーションの経験から感じたことなどを通して、「聞こえていなくても」分かり合えると感じたこと、かけがえのない一日一日を大切に楽しく過ごしていきたいと考えるようになった心の変化などが素直に書けています。

聞こえない・聞こえにくい子どもたちが、毎日の生活の中で何を見、どのように感じ、考えているのかを、子どもたちの言葉で、そのまま知っていただきたくて、鍋田さんに許可を得て全文を掲載しています。ぜひお読みいただけたら幸いです。

「聞こえていなくても」

福岡県立久留米聴覚特別支援学校
中学部2年　鍋田　明花

私と私の母は生まれつき重度の両側感音性難聴です。私たちは補聴器をつけていますが、話を聞き取ることはできません。そんな私たちを助けてくれるのが手話です。最近は、ドラマなどで手話を目にする機会も多くなりました。今、私達聴覚障がい者の言語として広まっている手話ですが、かつて、手話が禁止された時代がありました。

私の母は手話を使ってはいけないとする時代背景や、小学校低学年から地域の学校に通っていたという環境もあり、手話を上手に使うこと、読み取ることが出来ません。手話よりも話した方が読話により伝わることが多いです。以前は買い物や病院、どこに行くにも、母が口話でやり取りをして、私に手話で通訳をしてくれました。

しかし、コロナにより、マスクが外せなくなり、話を読み取ることができなくなりました。

母はメモ用紙を用意して、筆談をしたり、スマホに文字おこしのアプリを入れたりして、やり取りをするようになりました。そんな姿を見て、「私も自分からコミュニケーションをとらなければ」という思いと勇気が湧いてきました。

ある日、友達とお店に行った時、私は勇気を出して、スマホを使って店員さんに注文しました。その時の私は、「どう思われたかな。」「相手と通じ合えるかな。」「耳のこと、わかってくれるかな。」と不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安はすぐに消えてなくなりました。店員さんが、笑顔で優しく対応してくださったからです。

以前の私であれば、勇気がなく、黙っていたでしょう。実際、店員さんに何を言われているかわからず、何を言うことも反応することもできなかったことがあります。その時は、店員さんを困らせたかもしれないと、後悔しました。周りの人たちからも、「相手を無視している」とか「不愛想だな」と思われていたのではないでしょうか。私自身も「上手く話ができないから」と聞こえる人と話すことに積極的ではありませんでした。

しかし、この店員さんとの体験が私を変えてくれたのです。

私が、耳が聞こえないということをきちんと伝えたら、筆談で伝えてくれる人がいたことに喜びを感じました。その時、「この人は難聴なんだ」とか「この人はこういう助けを求めているんだ」とお互いが理解するということが大事なんだなと思いました。

私はこれから、耳が聞こえないことをはっきりと伝えていきたいです。また、相手の言った事が分からなかった場合は、「すみません。何と言われたか分からなかったので、もう一度ゆっくり言っていただけませんか。」とお願いしたいです。

なぜならば、相手の言ったことが分からないのに「分かりました。」と言ってしまったら、自分が何をすればいいのか分かりません。そして何より、その時、耳が聞こえないということを言わなければ、これからもずっと「聞こえている」と思われてしまいます。

また、私はこうも思っています。

聞こえる人たちと耳が聞こえない人たちがいろいろな場でコミュニケーションをとり、聞こえる世界と聞こえない世界を今よりもっとたくさん知り、お互いを理解して、安心して働ける社会が世界中に広まればいいのにな、と。

最近、こういう体験をしました。病院に行ったとき、お医者さんと看護師さんが大きな声で話してくれたのです。しかし、二人同時に話をされたので、なんと言っているかわかりませんでした。話しかけるときは、一人ずつ、口を大きく開けて、ゆっくり話してもらえると助かります。こういうことをたくさんの人たちに知ってもらいたいです。また、手話通訳や字幕などがもっといろいろなところに付けばいいなと思います。

このような体験から、私はいつか、聞こえる人たちと聞こえない人たちがお互いを理解するための場や時間を作りたいです。

私は、小学校高学年までは耳が聞こえないことがコンプレックスでした。「自分は聞こえる人たちよりも劣っている」と、下を向いてばかりいました。しかし、母の姿や店員さんとのコミュニケーションの経験をとおして、耳が聞こえないことは、人それぞれの個性であると思えるようになりました。

ときどき、駅やお店で私の方をチラチラと見ながら、話をする人たちがいます。「何を話しているのかな？」と気になりますが、もし傷つくような内容だったら、「聞こえていなくてよかった」とも思います。聞こえないから、ありのままの自分でいられることもあるのです。それに、耳が聞こえていたら、今の後輩や同級生、先輩、先生方と出会うこともなかったと思います。

聞こえていなくても、この世の中は「言葉」や気持ちで分かり合うことができます。

聞こえていなくても、私は楽しく過ごすことができています。

聞こえない人にも、聞こえる人にも、体が不自由な人にも、その他の障がいをもった人にも、この世の中には楽しいことがたくさんあります。自分の好きな事を楽しみながら、一度しかない人生の喜怒哀楽を味わって、一日一日をかけがえのない宝物だと思い、大事に過ごしていきたいと思います。

９月の行事

１日（金）　保護者教室
４日（月）～８日（金）夏休み作品展
５日（火）　スクールカウンセラー来校
　　幼稚部交流
７日（木）　４年生交流
１３日（水）スクールカウンセラー来校
１４日（木）　出前美術館（小中）
１５日（金）　保護者教室　高等聴覚説明会（中３）
１９日（火）　スクールカウンセラー来校　月曜時制
２２日（金）　PTA 評議員会
２６日（火）　スクールカウンセラー来校
２７日（水）～２９日（金）修学旅行（中２）
２８日（木）～２９日（金）幼稚部お泊り保育